

「五輪、無理だ」 発言備トツプ「爆弾証言」



「組閣委員会」中板が政府はどうかしている」「官の強気」「観客は入れる」「何で反対かわからない」
▼「中止は巨額賠償のツングスター」OGは保険に入っていた
▼「中止は巨額賠償のツングスター」OGは保険に入っていた
▼「中止は巨額賠償のツングスター」OGは保険に入っていた

「悲しき五輪」沢木耕太郎 特別寄稿

もう70歳以上は受け入れられない
大阪医師・看護師は泣いた 現地ルポ

小室佳代さん「入院先は宮内庁病院」情報を追う
綾野剛が小誌に告白「アレなしでは演技が」
吉川ひなの自著で明かした両親「タカリ」の衝撃

高3の夏1回戦「無口な48歳警備員」の緻密な計画
大阪女子大生惨殺「無口な48歳警備員」の緻密な計画
手付で2千億円ビル・ゲイツ離婚慰謝料は7兆円!?
近藤真彦社長「レス敗北で暴走が始まった」
紅白8回「プロレス不倫相手が」自殺未遂「していた」
2億欲しい「ドンファン」妻は慰謝料30万にキレた

「赤木フイル、あつたよ」
雅子さんの414日
「赤木フイル、あつたよ」
雅子さんの414日
「赤木フイル、あつたよ」
雅子さんの414日

茨城一家殺人犯 岡庭用征を 育てた地主一族の地獄

▼中学趣味はナイフ収集 高校猫の生首を持って登校
▼母「飛び降り自殺未遂」賠償金2千万円を支払った祖父
▼「動機は性的興奮」16歳で8歳14歳女児を連続通り魔
▼「医師少年院」5年で出所 グループホームを出た直後に…

夜ふけのなわとび 林真理子... 50	本音を申せば 小林信彦... 52	悩みが花 伊集院静... 54	きれいに生きましようね 草笛光子... 58	そこからですか!? 池上 彰... 46	師匠はつらいよ 杉本昌隆... 120	ツチャの口車 土屋賢二... 82	いまなんつった? 宮藤官九郎... 61	バンタレイバンククロス 福岡伸一... 60	人生エロエロ みうらじゅん... 96	川柳のらりくらり 柳家喬太郎... 83	言葉USA 町山智浩... 92	この味 平松洋子... 68	新連載 司馬遼太郎 幻のシブエ作を現代化 ベルシヤの幻術師 蔵 西... 69	ヤメ銀 津島信子 辻占の女 貴志祐介... 84	阿川佐和子のあひだに 佐久間宣行... 114	新・家の履歴書 名越康文... 64	「女たち、暮らしていきましょう」キムハタアジツ 「わたしが行ったさびしい町」松浦君臨 編者は語る 小澤みゆき ミステリーレジェンド 池上冬樹 名著のツボ 石井千湖 ベストセラー解剖/文春図書館推薦	「テレビ健康診断」 木曜邦画劇場 ネット初玉を採せ! その他の世界 クロースアップ ルイスアルシヤポ 言葉からえ隊 能町みね子 シマチャート 注目! 展覧会 ヒツマツ	マンガ タンマ君 東海林さだお... 62 沢村さん家のこんな毎日 益田三三... 67 日々我人降 榎玉吉... 94	新聞不問... 48 てしするバズル... 81	食味探検隊... 49 淑女の雑誌から... 91	伊藤理生のおんなの恋 読者より 表紙はうたうた和田誠... 136
---------------------	-------------------	-----------------	------------------------	----------------------	---------------------	-------------------	----------------------	------------------------	---------------------	----------------------	------------------	----------------	--	-----------------------------	-------------------------	--------------------	---	---	---	-----------------------------	------------------------------	-----------------------------------

AD = 伊藤信久 □ = 藤本真実 + 菊池 崇 + 櫻井淳志 + 鈴木知哉

誰かの命が
この血液を
待っている。





「血液・機体の配送」なら

私たちは
その人へ未来を
届けています。



株式会社 東商テクノ

人々を温める会社。

本社 TEL: 04-2968-6662
tousho-techno.co.jp

「五輪、無理だ」

警備トツプ

「爆弾証言」

NovoBioNTech COVID-19 vaccine solution, vial contains 500mg of mRNA for intramuscular use. Contains no preservatives. For use under Emergency Use Authorization (EUA) ONLY. DO NOT USE BEFORE USE DATE. Store at 2 to 8°C (35 to 46°F) for up to 3 months after dilution. Do not shake. Do not use after the expiration date and time.

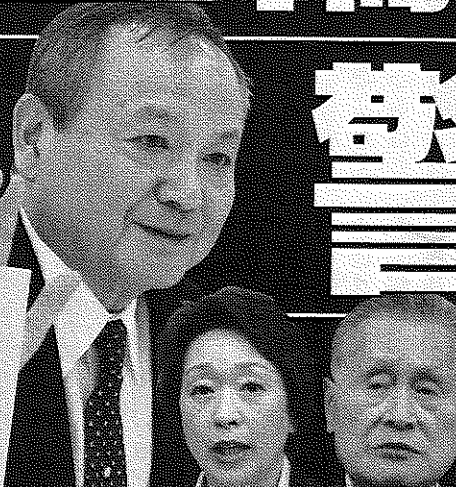
開催都市契約
第32回オリンピック競技大会(2020/東京)

II. 解除

64. 契約の解除

a) IOCは、以下のいずれかに該当する場合、本契約を解除して、開催都市における本大会を中止する権利を有する。

b) 開催国が開会式前または本大会期間中であるにもかかわらず、いかなる理由でも、戦争状態、内乱、ボイコット、国際社会によって定められた制限措置の対象、または文藝の一種として公的に認められる状況にある場合、またはIOCがその単独の裁量で、本大会参加者の安全が理由の如何を問わず強制に脅かされると信じるに足る合理的な根拠がある場合。



- ▶ 組織委員会 中枢が「政府はどうかしている」
- ▶ 都医師会責任者「感染者横ばいなら諦めるべきだ」
- ▶ 菅の強気「観客は入れる」「何で反対かわからない」
- ▶ 「中止は巨額賠償」のウソ IOCは保険に入っていた

新型コロナの第四波が猛威を振るい始め、首都圏や大阪府に緊急事態宣言が三たび発令されていた今年四月末。その男性は親しい知人と語り合っていた。話題が五輪に及ぶと、彼は憤慨した口調に変わったという。

「こんな時期に五輪をやろうという政府は、どうかしている」

今夏の五輪開催を推し進める菅政権に強烈な苦言を呈したのは、元警視總監の米村敏朗氏(70)。現在は五輪組織委員会が警備の最高責任者、「チーフ・セキュリティ・オフィサー」(CSO)の重責を担う人物だ。

七月二十三日に控えた開会式まで二カ月余り。ついに、五輪の運営・準備を取り仕切る組織委の内部からも「五輪、無理だ」の声が上がってきた。

医療体制の逼迫などを理由に、世論調査でも中止を求める声が六割に迫っている東京五輪。だが、そうした数字に菅義偉首相は、

「感染拡大が止まらない日本列島。それでも菅首相は「五輪は観客入れてやる」と強気の姿勢を崩さない。だが、医療界からは「とても医療者を派遣できない」と悲痛な叫び声が上がっている。そして、五輪開催を主導してきた組織委員会の中核からもついに――。

「なんでこんなに反対されるのか分からない。コロナがなくなることはないのに。結局、感情論なんだよ」と、口にしてはいるという。中でも首相が拘っているのが、単なる開催ではない。海外観客は受け入れない方針が固まったものの、国内観客の入場制限は判断が六月に先送りされた。

「組織委の橋本聖子会長は周囲に『五輪をやるなら無観客しかない。それが選手たちのためだ』と語っている。武藤敏郎事務総長ら他の組織委幹部も『無観客はやむなし』という雰囲気です」(運動部記者)

それでも、菅首相は強気な姿勢を崩さない。側近たちにはこう語っている。

「観客は入れる。(フッロ野球など)競技場での感染は確認されてないだろ」

五月七日の会見で緊急事態宣言の延長を表明したが、その「中身」にも首相の要望が色濃く反映されていた。

組織委の米村CSO、橋本会長、森前会長

小池都知事の動向も注目される

開催都市契約には「IOCは中止する権利を有する」

「新たに示された対策では飲食店への規制が強化された一方、イベント規制は緩和されました。これまでは原則、無観客での開催を求めてきましたが、『入場者五千人以内かつ収容定員の50%以下』ならOKとされたのです。閣僚からは反対意見も上がりましたが、最後は首相が押し切りました」(政治部デスク)

周囲の懸念をよそに、観客入りでの五輪開催に突き進む菅首相。その頼みの綱が、ワクチン接種だ。

七日の会見では「七月末までの高齢者接種完了」に加え、突如として「ワクチン接種一日百万回」という新たな目標を掲げた。しかし、五月六日までで一日の接種回数が最多だった日でも約二万一千回。一日百万回の接種など可能なのか。

現時点で、全国千七百四十一市区町村のうち、七月末までに高齢者接種を終える見通しが立っている自治体は約千に過ぎない。

「結局、五輪に否定的な声を封じするために、開会式に合わせた『七月末』『一日百万回』という現実離れ

「なんでこんなに反対されるのか分からない。コロナがなくなることはないのに。結局、感情論なんだよ」と、口にしてはいるという。中でも首相が拘っているのが、単なる開催ではない。海外観客は受け入れない方針が固まったものの、国内観客の入場制限は判断が六月に先送りされた。

「組織委の橋本聖子会長は周囲に『五輪をやるなら無観客しかない。それが選手たちのためだ』と語っている。武藤敏郎事務総長ら他の組織委幹部も『無観客はやむなし』という雰囲気です」(運動部記者)

それでも、菅首相は強気な姿勢を崩さない。側近たちにはこう語っている。

「観客は入れる。(フッロ野球など)競技場での感染は確認されてないだろ」

五月七日の会見で緊急事態宣言の延長を表明したが、その「中身」にも首相の要望が色濃く反映されていた。

「国から自治体にワクチンが大量に配給されても、東京都からワクチンが何箱届くのか、一、二日前にならないと確実に分からないのが現状です。もっと早く知らせてくれれば、予約の募集や接種体制の確保ができるのでしょが……」

「ワクチン接種でフル稼働を求められる医師や看護師。そうした中、組織委が四月末、日本看護協会に大会中のスタッフとして、看護師約五百人の派遣を要請して

せめてステージ2でなければ

重症者の急増で医療現場は逼迫している



いたことが明るみに出た。「コロナで退職者も増え、とにかく人手不足。国からの通達で夜勤は月に四回と制限されていますが、月六〜七回やらないと回らない。妊娠しても夜勤を免除できないほどです。とても五輪に看護師は派遣できません……」(看護業界関係者)

菅首相は看護師派遣について「休んでいる人が大勢いる」として、休職中の人材を活用する考えだが、「看護師が現場勘を取り戻すには、一定の時間が必要だ。五輪本番では緊急性のある熱中症の対応も求められますが、現場を離れて久しい看護師の方々にそうした対応が果たして可能なのか。そもそも、再就職の希望者には、五輪ではなく医療現場に戻ってきてほしいのが本音です」(日本医師連の森田進氏)

五輪が実施されれば、会場で感染者が出ることも避けられない。実際、本番と同じ会場で行われたポルトのアジア・オセアニア大会予選では、五月五日、スリランカチームでスタッフの

うやうやしく取るのか、説明が必要だ。安倍(晋三)さんが「一年後にコロナを克服した証としてやろう」と。これって何の回答にもなっていない。オリンピックのレガシーは、どこまで行ってもアスリートへの感動。そのために、捨てられるものは捨てていこうと。それは内部でも主張してきたのは事実。ただ、「止めるべきだ」とまで言っていない。誤解がある」

ただ、昨年二月、ダイヤモンド・プリンセス号で集団感染が起きた頃には、五輪に否定的な見解を示していたという。

「去年の二月には『五輪は無理だ』と言ったんです。新感染症は極めて未知のもので、どの程度の感染力があったか、どの薬が効くのか

コロナ感染が判明。現場に居た大会関係者が言う。「関係者は毎日、抗原検査を行い、そのスタッフも前日まで陰性だったそうです。この日、抗原検査とPCR検査で陽性反応が確認されると、すぐに都内の大学病院に搬送された。こうした場合に備え、会場には救急車一台に医師が六名、看護師が八名、常駐していました。医療が逼迫する中、地方から呼び出した医師らを、自腹で都内のホテルに宿泊させていたんです。そこまで厳重な体制を取っていても、感染者が出てしまう。こんな状態で五輪ができるのでしょうか……」

現在、東京都の一日あたりの新規感染者数は千人前後に及ぶ。今回、都医師会で五輪担当理事を務める新井悟氏が小誌の取材に応じた。医師らの五輪派遣も担う人物である。

「六月にかけて、感染が収束せずに感染者数が横ばいだったり、第四波のような波が再び来た場合には、五輪は開催を諦めるべきです。ワクチン接種の遅れに

よって、秋頃までは感染をコントロールできないというのが大方の見方。そんな中で五輪を開催するのは、感染拡大の懸念があり、きわめて危険だと思います」

医師会だけでは足りない。政府の新型コロナウイルス基本的対処方針分科会。その委員で、国立病院機構三重病院の谷口清州氏は四月十四日、英医学誌に「今夏に五輪を開催する計画の再考を」と主張する論文を共著で発表した。その谷口氏が言う。

「東京都の感染状況が現状のステージ4のままでは、

冒頭のように、組織委CSOの米村氏までが今夏の五輪開催に強い疑義を呈したのだ。その米村氏は、どのような経歴の人物か。

「米村氏は警察庁で警備・公安畑を歩んだ。危機管理のプロ。警視総監まで上り詰め、一一年末から二年余り、野田政権と安倍政権で、首相官邸の危機管理対応の要である内閣危機管理監を務めました。この時、

五輪開催は到底無理でしょう。分科会では『ステージ2(目安として)日あたり百人)に近い状況でなければ緊急事態宣言を解除できない。それ以前に解除すれば早期にリバウンドが起これる』という議論をしていますが、ステージ2どころか、ステージ4で五輪を開催すれば、さらなる感染拡大、医療の逼迫を招いて東京、そして世界が危険に晒されることになりかねません」

医療従事者や公衆衛生の専門家からの悲痛な声。さらに――。

新型インフルエンザに対する政府行動計画の策定に関わった経験もあり、感染症について危機意識を強く持っている。組織委CSOには一五年十二月に就任しました」(警察庁担当記者)

米村氏は四月末、親しい知人に對し、「政府はどうかしている」との言葉に続けてこう口にしたという。

「感染者がどれくらいになったら中止とか、数値で示

さない」と、国民の理解は得られない」

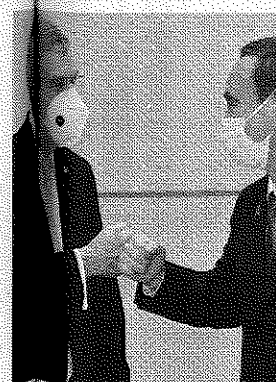
危機管理のプロで、組織委の警備トップである米村氏から飛び出した「爆弾証言」。官邸関係者が語る。

「現場レベルでは開催に否定的な声が上がっていましたが、組織委中核からもそうした声上がり始めました。しかも、米村氏は危機管理監として感染症の怖さを熟知しているだけに、その言葉は重い。中止シナリオも現実味を帯びてきたと言わざるを得ません」

果たして「爆弾証言」の真意は何だったのか。当の米村氏に話を訊いた。

「私は『こんな時になぜ五輪をやるのか』という国民の疑問に、政府が主体的にきちんと説明すべきだ」と。国民は、外国からたくさん人がやってくれば、感染が拡大するのではないかと思っ

「六月にかけて、感染が収束せずに感染者数が横ばいだったり、第四波のような波が再び来た場合には、五輪は開催を諦めるべきです。ワクチン接種の遅れに



来日延期となったバツハ会長に首相は……

全く分からない。こんな状態ではとてできない、と。内輪での会話でしたが、周囲からは「そんなことを言われては困る」と言われて。今は変異株とか言っても、実態は分かっています。だから、このタイミングでもし五輪をやるなら、もっと心に響くアピールや説明をやらなさい」と(同前)

それでも、以前なら組織委員長だった森喜朗氏が持ち前の調整力で異論を封じていたかもしれない。だが、状況は変わっているという。森氏と家族ぐるみの付き合いで、選手村村長の川淵三郎氏を後継会長に決めかけた「密談」の場にも同席した人物が明かす。

IOCが掛けた八億ドルの保険

「小池(百合子)都知事や武蔵事務総長ら、色んな人が森さんと会いたいと言ってくるけど、僕や娘さんは全てシャットアウトしています。『森さんと五輪は関係ないでしょ』と。娘さんは、あの発言でこれまで世話をしてきた人が皆、逃げたことを恨みに思っている。(四月二十二日夜に)二階(俊博)幹事長と会ったのは、二人はそれほど仲良くなく、彼女も『それなら(影響も無いから)いいか』と許可したんです」

森氏の回答。

「組織委員長を辞任しており、私人の立場にありませう。プライベートの観点から回答を差し控えます」

中止に踏み切れないのには、そのIOCの拝金主義が背景にあるとされる。

「五輪中止の場合、IOCは、米放送局のNBCから約一千三百億円に上る放映権料を受け取れなくなりま

決定権があり、日本側に開催義務を免除する条項などは記されていない。それもあってか、首相も「IOCの言うことを聞くしかないんだよ」と漏らしてきた。

だが、スポーツ社会学が専門の一橋大学・坂上康博教授はこう指摘する。

「開催都市が中止を申し出ることができないというわけではありません。実際、昨春に決めた五輪の一年延期は、安倍晋三首相(当時)からIOCのバツハ会長に申し出た話です。同じ手順を踏めば、菅首相が『安全性を確保できない』と中止を訴えることもできるはず。もし日本に巨額の賠償請求を起した場合は、五輪に手を挙げる国は出てこなくなるでしょう。IOCの立場としても、それは避けたい。結局、全ては日本側の決断次第と言えるのです」

アスリートファーストの五輪とは、希望的観測だけで開催に突き進むことではないはずだ。開催国の代表として、菅首相には、医療従事者や米村氏らの疑問に

感染拡大や医療現場の実情を考えた時、中止や延期も選択肢だが、そこに立ち上がるのが、IOCのバツハ会長だ。

「森氏が不在となれば、菅首相自身がバツハ氏と向き合うしかありません。ただ、バツハ氏は米ワシント

ン・ポスト紙のコラムで『ぼったくり男爵』と揶揄されていたように、五輪の拝金主義を主導してきた張本人。特にカネが絡むと、際立って厳しい姿勢を見せてきます」(組織委関係者)

どれだけ五輪開催に否定的な声があがっても、実際

た時も保険が下りている」

事実、英ロイター通信は「夏期五輪でIOCが通常掛けていた保険は約八億ドル」と報じている。これまでの掛け金を考えれば、仮に中止となっても巨額の保険金が下りるはずだ。

それでは、日本から中止を申し出ることには可能なのか。IOCが都や組織委と結んだ「開催都市契約」によれば、IOCのみ中止

必要がある。

週刊文春 CINEMA 菅野直樹 菅野直樹 菅野直樹

「もう70歳以上は受け入れられない」

大阪医師・看護師は泣いた 現地ルポ



吉村大阪府知事

「……。小誌記者の目の前で、医療機器のアラーム音が鳴り続け、赤や黄色のランプが点滅している。壁に設置されたモニターには、患者の容体を示すチャートがリアルタイムで揺れ動き、水色の防護ガウンやフェイスシールドに身を包んだ医師や看護師が、専門用語を早口で口にしながら、せわしなく動きまわる。

「入ります！」
突如、大きな声が響き、その場の空気が一層張り詰める。ストレッチャーに乗せられた新たな患者が運びこまれてきた。

「あの患者さんは、これから人工呼吸器の挿管です。これでまた、満床ですね」
その場にいた看護師が溜め息まじりにそう説明した。

大阪の「医療崩壊」の実状を取材する記者に、ICU（集中治療室）の様子を見せてくれたのは大阪府高槻市にある大阪医科大学病院。同院は、ICU十六床のうち十床と別棟棟四床の計十四床を新型コロナウイルス

の重症病床としている。病院長の南敏明氏が言う。

「三月の終わり頃から急激に感染者が増え、病床に空きが出ればすぐに新たな患者が入ってくる。しかも、以前は軽・中等症の病院から重症化した人が搬送されてきていたのに、最近自宅やホテルから直接搬送されてくるんです。急激に重症化するから対応が後手後手になっていて、人員も人工呼吸器の数も、まったく足りていません」

看護師や医療機器だけでなく、病床も不足している。五月五日に重症病床の使用率が一〇〇%を超え、自宅療養者の数は一万四千人、療養先調整中の患者も三千人以上に上っている（十日時点）。救急車を呼んでも搬送先が見つからず、最長で四十七時間も自宅待機を強いられるケースもある。

大阪府南部に位置する河内長野市にある「水野クリニック」の水野卓郎院長もこう嘆く。

「保健所の指示で自宅療養中の一人暮らしのお宅に往診に伺うと、糞尿にまみれ

て寝込んでいることがよくあるんです。呼吸不全でトイレに行くことすら出来ず、食事すらまともに摂れていない。こんな状態を放置していたら、肺炎より先に脱水症状や飢餓で亡くなってしまう可能性があります」

本来、血中酸素濃度は九〇%以下で呼吸不全と言われるが、水野院長が往診したある患者は、保健所から「八五%を切ったら救急車を呼べ」と指示されていた。

このような患者を一元的に管理し、入院先を調整するのが大阪府の「入院フォローアップセンター」なのだ。実際に患者と直接電話でやり取りするのは保健所の仕事になる。しかし、

「この保健所で働く保健師さんの労働環境が大変なことになっているんです」
そう訴えるのは、大阪府関係職員労働組合の小松康則委員長だ。

「センターから昼夜問わず連絡があり、明け方から翌朝まで仕事が続く。月の残業が二百時間を超える人もいる。携帯電話を自宅に持ち帰る当番もあり、その場

合は、お風呂もゆっくり入れないし、眠ることもままならない。感染者に入院先が見つからない旨を説明すると、電話口で罵声や絶望の声をぶつけられる」

入院先を見つけようとセンターにかけあっても、「無理なものは無理。それを説明するのが保健所の仕事でしょう」
と一蹴され、板挟みの煩悶の中で、多くの保健師は働いている。

また、大阪市内のある民間病院で働く医師は最近、こんな経験をしたという。

友人男性がコロナに感染し、高熱が続いて救急車を呼んだ。だが救急隊員は、「もう少し経過を見てください」
そう言い残して帰ってしまったという。男性は息も絶え絶え、泣きながら電話を手に、友人である医師の携帯を鳴らした。

「頼む、なんとか入院させてくれないだろうか……」
しかし、病院には感染者を独自に受け入れる権限がなく、そもそもベッドも満床で受け入れられない。い

自宅療養中の患者。ハンガーに点滴をつり下げている（左上）



く友人といえども断らざるを得ない。胸が締めつけられるような思いで医師は電話を切るしかなかった。

コロナ患者と向き合う看護師たちの体験も壮絶だ。ひと口に感染症対策といっても、それに伴う労力は通常の何倍にも及ぶ。普段であれば業者が行う病室の拭き掃除や片付け、ごみ出し、小物の補填、シーツ交換等々もすべて看護師が行うことになるからだ。自分も感染するかもしれないというストレスも大きく、円形脱毛症になったり、感情のコントロールがうまくできなくなってしまう看護師もいるという。

大阪府南東部にある医療センターで働く看護師は、四月半ばに同僚が感染。生死の境をさまよった。

「それを知ったとき、身近な仲間を失う怖さを実感して、足の震えが止まらなくなりました」

さらに、病院内では認知症や精神疾患を持ったコロナ患者と接することもある。

「いきなり唾を吐きかけられたり、『この野郎』と罵られたり……。認知症でなくとも、患者さんからストレスをぶつけられることはよくあります」（同前）

堺市内の総合病院に勤める看護師もこう語る。

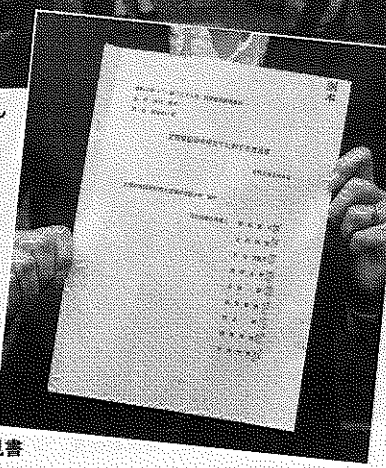
「今や八十代以上を受け入れられないのは当たり前になりつつある。それどころか、七十歳以上ですら受け入れ拒否を検討している病院が複数あると聞きます。大きな声では言えませんが人員も病床も限られていますから、少しでも救える可能性の高い若い命を優先せざるを得ないのは、致し方ないことではないでしょうか」

「赤木ファイル、あったよ」 雅子さんの414日

大阪日日新聞記者
相澤冬樹



赤木俊夫さん
この赤木俊夫さん
の事は下即の
ひいせの件だ。



5月6日、記者団の取材に応じる雅子さん

五月五日午前二時。赤木雅子さん(50)はふとベッドで目が覚めた。何げなく枕もとのスマホを手にする。と突然LINEが届いた。朝日新聞の方だ。こんな夜中に何だろう? 「きょうの朝刊に赤木ファイルに関する記事が出ます」...詳しくは書いてないけど直感した。これはいい知らせだ。夜明けの朝刊。一面トップに「赤木ファイル 存在認める」の見出し。「あるともないとも言わない」と突っぱね続けてきた財務省が、とうとう認められた...

国が赤木ファイルの存在を認めた意見書

産経新聞の論調が.....

ところが財務省は、ファイルがあるのかどうかすら答えない。「答える必要がない」という。誰がどう見てもあるに決まっているのに、雅子さんがどんなに求めても、誠意のある答えを返さなかった。それが一転、「存在を認める」という。願いがかなって「やった!」と喜んでおきそうなのだが、この時、雅子さんにそういう高揚感はなかったという。「皆さんの注目が集まるにつれて不安になってきたんです。もしも夫の言っている

明け、俊夫さんの上司だった池田靖さんも存在を明かしていた。その時の音声データがあるから、当たり前な事実なのだ。真相解明をめざし国などを相手に裁判を起こした雅子さんにとって、夫を苦しめた改ざんの実態を示すまたとない証拠となる。弁護士団はこれを「赤木ファイル」と名付け、裁判に提出するよう財務省に求めた。真相解明をめざし国などを相手に裁判を起こした雅子さんにとって、夫を苦しめた改ざんの実態を示すまたとない証拠となる。弁護士団はこれを「赤木ファイル」と名付け、裁判に提出するよう財務省に求めた。真相解明をめざし国などを相手に裁判を起こした雅子さんにとって、夫を苦しめた改ざんの実態を示すまたとない証拠となる。...

赤木俊夫さん
俊夫さんの遺書
「朝日新聞のスクープも、この問題を忘れずにコッポツ取材してください。コッポツ取材してくださる方がいるんだなって感じます。ほかにも真剣に取材していただいた記者の方一人一人の顔を思い出しているところです。夫が亡くなった時あんなに怖かったマスコミの方が、今は味方となっているんですね」
闘いが始まったのは去年三月十八日。俊夫さんが死

の直前、改ざんの実態を告発しようとして懸命に書き残した「手記」。それを本誌で全文公開し、国などを相手に裁判を起こした。あれから四百十四日。マスコミ各社の報道の積み重ねと、世の人々の共感が、頑なに動かなかった財務省を動かしたに違いない。これこそ民意の勝利だろう。くじけそうになることもあったが続けてよかったと、雅子さんは感じていた。

人名はすべて開示すべき

国は赤木ファイルを「提出する」と回答してきたが、すべてを開示するというわけではない。マスキング、つまり黒塗りして一部を隠すという。では何を隠すのか? 「財務省の調査で改ざんなどに関与したとは認定されていない者」や「幹部職員ではない者」の情報を隠すというのである。一見もっともらしく聞こえるがとんでもない話だ。なぜなら、俊夫さんの作った赤木ファイルは改ざんの実態を記した文書なのだか

政治

小池と手打ちか、密約破りか ドン内田が語った本当の仲

自民党東京都連で、ドンの乱の衝撃が続いている。背景にあるのは、都議会のドン、内田茂元都議（82）と、天敵、小池百合子都知事（68）の化かしあいだ。

四月十七日、自民党千代田総支部は、内田氏の娘婿で千代田区議の内田直之氏を七月四日投票の都議選に公認申請する方針を決定。だが内田氏の反党行為（後述）を批判してきた堀田康彦総支部長が、それを不服として辞任。翌週には副支部長らも追隨して辞任を表明するなど支部内は大混乱に陥っている。

内田氏と直之氏は同マンション（別部屋）に住む



内田氏と直之氏は同マンション（別部屋）に住む
連関係者）
まるで家族

きっかけは、一月三十日の千代田区長選だった。知事与党の「都民ファーストの会」推薦の樋口高頭氏が、自民推薦の早尾恭一氏を破って当選した。

その際、内田氏が旋破りの一手を打った。小池氏と「手打ち」し、水面下で樋口氏を応援したのだ。区長選挙期間中、九人の区議を集めて「早尾は区長にふさわしくない。樋口を支援しろ」と指示したという。

「都議選で、千代田区（定数二）から娘婿を擁立したい内田氏は、小池氏と「区長選で樋口を応援する代わりに、都議選では都民ファ候補を千代田区に擁立しない」という密約を交わしたと囁かれています（自民党都連関係者）

のための反党行為。都連内からは「内田氏を離党処分すべき」との声も出たが、結局、自ら三月末に「都連最高顧問」の辞表を提出した。しかし、

「最近の小池氏は」とにかく都議選よ」と戦闘モードで、選挙後のレームダック化を防ぐため自公の過半数割れを狙っている。自民が一枚岩ではない千代田では確実に勝っておきたいところ。内田氏との密約も破って都民ファから擁立を図るでしょう（政治部記者）

内田氏を直撃した。
「小池氏との密約は？」
「はは、するわけないじゃない。会ってもいねえんだし」
最高顧問を辞任したのはなぜか。

「早尾氏を」応援することほこちのプライドが許さないよ。でも、俺が応援しなかったことに、向こう（都連）が答えを出せないでいた。区切りをつけてやんなきゃいけないからね」
直之氏は自民党の公認候補として適任？
「知らないよ。俺は一切（公認を）頼んでない」

小池知事と実際はどういう関係なのか。
「今回もそうだけど、ずっと小池に会ってくれ、話をしてくれないかと、言ってきた人がいた。（小池氏が）「あちらはお年だから」と

随分と逃げていたけど。いつまでも（小池都政が）続くわけじゃない」
これから幕が開くのは内田氏の「家族ファースト」と、小池氏の「自分ファースト」の戦いのようなだ。

経済

営業所長が残業代未払い提訴 ワタミは今でもブラック体質

コロナ禍で業績不振に苦しむ外食大手のワタミ。五月中旬には、日本政策投資銀行から約百億円の資金繰り支援を受ける方向だ。

「居酒屋から焼肉店への転換を進めています。外食事業は赤字です。そうした中で渡邊美樹会長（61）が力を注ぐのが、高齢者に向けた弁当宅配事業『ワタミの宅食』。ステイホームを追い風に一日二百六十万食以上を配達し、新たな主力事業にしようとする躍起になっています」（外食アナリスト）
過去に新入社員が月百四十時間を超える残業の末、過労自殺するなどブラックぶりが問題視されてきたワタミ。だが、その実情は今



焼肉店への転換を進める渡邊会長

で営業所長を務めていたAさんだ。Aさんは勤怠記録の改ざんと残業代の未払いを高崎労働基準監督署に申告。訴えは認められ、昨年九月、ワタミは労基署からは正勧告を受けた。ワタミは一旦は、謝罪とともに渡邊氏らの減俸を発表。特別調査委員会の設置を決め、Aさんにもヒアリングを行ううとしていた。だが、

「ワタミ側が用意した調査委員では何を信用していいかわからないので、調査に応じる前にまず、ユニオンを通じて調査委の立ち上げの経緯などについて説明を求めました。ですが、会社側は一切応じなかった。調査がないまま今年二月に団体交渉に臨んだところ、『調査委は解散した』と通告されました」（同前）

結局、会社側からは未払い金に関し、金額の提示すらされてないという。Aさんは三月末、会社と渡邊氏を相手取り、約七百二十万円の支払いを求める訴訟を起こしたのだった。
ワタミ広報の回答。
「勤怠記録の改ざんについ

社会

「秋元先生はブラダの服を」 パパ活議員の裏切り証言

カジノを含む統合型リゾート（IR）事業を巡る汚職事件で、取賄罪などに問われた衆院議員、秋元司被告（49）。東京地裁で開かれていた公判で、中国企業からの「接待旅行」の実態を明かしたのは、あの「パ

パ活議員」だった。
五月六日の証人尋問。検察側の証人として登場したのは、白須賀貴樹衆院議員（46）だ。小誌は二月十七日配信のスクープ速報で、白須賀氏が緊急事態宣言下に高級ラウンジに通っていたことを報道。その直後、自民党を離党している。

「白須賀氏はこれまでも、秘書の当て逃げ事故や選挙妨害など不祥事が絶えませんでした。今回のカジノ汚職事件を巡っても、東京地検特捜部から千葉県内の事務所が家宅捜索を受けています」（社会部記者）

実際、白須賀氏は調べに対し、中国企業から百万円を受け取ったことも認めている。しかし、秋元被告と違ったのは「権限」だ。「取賄罪は、本人の職務に因りて賄賂を受けることで成立します。秋元は当時IR担当の内閣府副大臣でしたが、白須賀議員はIRに

ついでに職務権限はないと見なされ、立件は見送られました」（同前）

起訴内容によれば、秋元被告の賄賂総額は計約七百六十万円。うち約百八十万円分は、白須賀氏らと一七年十二月に中国やマカオを旅行した際の遊興費などだ。今回の証人尋問でもこの点について、検察側に問われた白須賀氏。「秋元先生に『世界のリッチな方々の生活を見に行こう』と誘われた」と証言し始めた。

「白須賀氏は、秋元被告らとプライベートジェットに乗って、中国とマカオの視察に向かったそうです。現地では、中国企業の本社見学をしてからマカオのカジノへ。翌日は高級ブランド店でショッピングに興じたといひます。証言台は無罪を主張する秋元被告の目の前にありますが、議員パッ

ジを付けずに現れた白須賀氏は淡々と視察の様子を説明していました」（同前）
秋元被告は公判で、海外視察の精算は「事務所が負担すると思っていた」と主張してきた。

しかし、白須賀氏は「秋元先生」の「嘘」を次々と明かしていく。カジノでは「私も（約十四万円相当の）チップ二枚を手渡されたが、それ以上の枚数を受け取っていたと思う」。ショッピングでは「グッチ、エルメス、ブラダ、フェラガモなどで靴や服を選び、中国企業の社長がすぐ近くにいて、カードで支払いをしていた」。視察は「全体的に贅沢で、明らかに秋元先生を接待するためのものだった」と総括した。

弁護側の質問が終わると、足早に法廷を去った白須賀氏。かたや、仲間裏切られた秋元被告は、腕を組み、硬い表情で被告人席にもたれ続けていたのだった。



今年2月、離党届を提出した白須賀議員

国際
長男を重用、長女と別離
トランプの「俺の家の話」

「米国の大統領から言論の自由が奪われた。腐敗したSNS企業は政治的代償を支払わなければならない」五月五日、ツイッターなどをこう批判したのはトランプ前大統領(74)。SNSのアカウントが凍結されたため、自身のサイトにコーナーを設けて発信を始めた。四月十日には、約四百人の共和党関係者を前にこう宣言した。

「我々は二〇二二年に下院と上院を取り戻し、二四年にホワイトハウスを勝ち取るため、候補者を送り出す」現地記者が解説する。



トランプは、来年の中間選挙で民主党から上下院の過半数を奪還するのが最重要課題。トランプの影響力は、いまだ根強く、選挙の旗印に担ぎ上げられています。会合が行われたのは、フロリダ州パームビーチに一万平方メートルもの敷地を有する「マー・ア・ラーゴ」。約百年前に建築されたが、一九八〇年代に所有者一族が取り壊しと住宅地の造成を計画。そこでトランプが「売らなければ周囲の眺望を壊す」と一族を脅し、八百万ドルで購入した。ここは俳優のシルベスター・スタローンも会員のリゾートクラブでもあるが、トランプは今年一月にメリア夫人(51)と移住し、活動の拠点としている。

ゴルフに励み、体重が大統領時代より約七キロ減り、百三十キロとなったトランプ。子どもとの関係にも変化が。「長男のドナルド・トランプ・ジュニア氏(43)が父の上級顧問に就任。来年の中間選挙の候補者選定にも助言し、影響力を増している。去年の大統領選で『誰かが父の投票用紙を燃やした』と誤情報をSNSで拡散するなど、陰謀論を主張し物議を醸してきた(同前)」。一方、元大統領補佐官の長女イヴァンカ氏(39)は父と距離を置いている。自身のSNSに「今日、私は(注射を)打った!! あなたも打つことを望むわ!」とワクチン接種する写真を投稿。トランプ支持者から「失望した」と言われたが、「彼女は、一月に暴徒が米議会を襲撃して扇動の責任を追究された父に、愛想を尽かしたようです(同前)」。トランプはこの扇動を巡って提訴されているほか、複数の訴訟を抱えている。十年間にわたる所得税の脱税も追及されているが、「もう大統領ではないから」と

応じない姿勢だ。ジャーナリストの堀田佳男氏が語る。「最近の調査でバイデン大統領の支持率が約五割に對し、トランプも四割程度と善戦。FOXニュースに自身の次期大統領選への立候補を問われたトランプは「状況を真剣に、真剣以上に見ている」と慎重に発言していますが、実際はヤル気満々と見られています」。トランプ劇場はまだまだ終わりそうにない。

スポーツ
二軍暮らし巨人・小林誠司
ファン投票一位の残酷

「打てる捕手」の価値が高まる一方の近年、「守りの捕手」の生きる道は狭まりつつある。典型的な守備型の巨人・小林誠司捕手(31)は、二軍暮らしの泥沼から抜け出せない状況だ。今季、キャンプでは主力や外国人と同じ調整が認められる「S班」でのスタートだった小林。三月二十六日の開幕一軍メンバーに名を連ねたが、早くも四月七日に二軍行きを通告される。「元木大介ヘッドコーチは『打撃の方でもっと上がってこない、スタメンで使えない』と話していた。ただ、一軍では試合後半に守備固めで起用されてばかりで、与えられたのは一打席、



再び一軍での英姿は見られるか

になり、打球が前に飛ばず、飛んでもせいぜい内野フライ。キャンプ時から原辰徳監督、元木ヘッドが熱心に指導していたが、今はもうサジを投げている状態です」。現在の二軍捕手争いは、クリーンナップも打てる大城卓三(28)が一番手で、守備固めとして経験豊富な炭谷銀仁朗(33)が控える。「さらに昨季の打率三割超えの、打てて走れる岸田行倫(24)もあり、小林のつけ入る隙はない。二軍でも阿部監督が、次世代の慎之助」として山瀬慎之助(20)に猛シゴキを課して売り出そうとしており、小林は二番手扱いです(同前)とはいえ、球界屈指の強肩は健在。独身のイケメンでもあり、人気は球団でもトップクラスだ。

「ヤブーの野球速報アプリ『スポナビ』で小林は二軍戦に出場するたび、活躍しなくてもファンが選ぶ『みんなのMVP』で一位、もしくは僅差の二位に入っている。熱心なファンたちが応援し続けているのです。が、逆に残酷な状況にもな

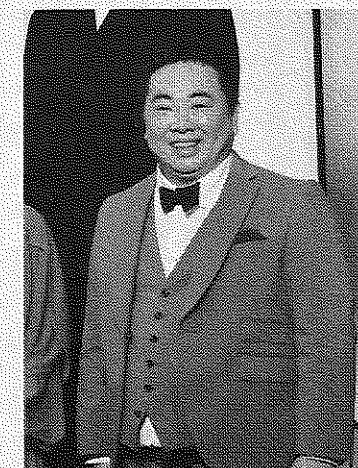
っています(前出・記者) 今年年俸は推定一億円。だが、二軍での出番さえもおぼつかない現状に、トレードの話も浮かびつつある。「オリックスや日ハムが食指を動かしており、チーム内でも『飼い殺しにするくらいならバ・リーグで伸び伸びやらせてあげればいい」

役柄に憑依するコントで人気を博す一方、〇三年には「いつもふたりで」(フジ系)で松たか子の同僚役として連ドラデビュー。〇六年には映画「間宮兄弟」で佐々木蔵之介とW主演。キネマ旬報ベスト・テン新人男優賞を獲得した。「うだが上がらない、朴訥な役をやらせると絶品。本人は『芸人だからこそブサイクな役も笑ってもらえる』と、芸人俳優としての哲学を語っている。その風貌も相まって芦屋雁之助を彷彿とさせたが、実際〇七年には雁之助の当たり役・山下清として『裸の大將』(フジ系)に主演。大河二作、朝ドラ二作の出演歴も持ち、芸人俳優の筆頭格といえる(ドラマ関係者)

芸能
仏壇メーカー→芸人→俳優
塚地武雅49歳の回り道人生

五月十四日に最終回を迎えるNHK連続テレビ小説「おちよん」を支えた芸人勢。前半では、ほっしやん。こと星田英利(49)が話題を集めたが、終盤に目立ったのがドラゴンドラゴンの塚地武雅(49)だった。「戦時中、防空壕でヒロインの杉咲花(23)と絡むシーン」を設け、いざれまた出て来ることを匂わせる演出。再登場すると、トレイドマークのずんぐり体型と丸顔で、エンタツ・アチャコの花菱アチャコをモデルにした役を器用に演じた(放送記者)

大阪出身の塚地は桃山学院大卒業後、地元仏壇メーカーに就職するが、お笑いの夢を捨て切れず退社。竹中直人、大竹まことらの「シテイボーイズ」に憧れ上京し、大手事務所・人力舎の養成所で修業した。一九九六年、二十四歳の時に鈴木拓(45)を相方にドラゴンドラゴンを結成。「二〇〇一年開始の『はねるのトびら』(フジ系)に抜擢されブレイク。三十歳の遅咲きだった。回り道したため年下の先輩芸人が多く、彼らには今も敬語で話す(バラエティ制作関係者)



Twitterのフォロワーは7.5万人。鈴木は6.9万人と意外に接戦

小室佳代さん

小室佳代さん「入院先は宮内庁病院」情報を追う



（現在、佳代さんは体調が悪く、長期間の入院中と伺っております）
四月二十七日、小室佳代さん（54）の元婚約者・X氏が発表したコメントには、意外な事実が記されていた。

NYのロースクールで最終試験が始まった佳代さん

X氏が四月下旬に小室佳代さんの代理人・上芝直史弁護士から、自身の代理人を経由して聞かされた新事実には、マスコミ各社は騒然となった。入院先を巡って情報が錯綜。GW中も各社が情報収集を続ける中、今度は『女性セブン』（五月七日発売）がスクープを放つ。X氏の「長期入院」コメントからわずか六日後の五月三日に、自宅付近を歩いている佳代さんの写真を掲載したのだ。『長期入院のウソ』「独占撮」と題した誌面には、両手に荷物を提げた

佳代さんの姿があった。一体、何が起きているのか。四月二十七日のコメント発表時、真先に浮上したのはこんな声だった。「宮内庁病院ではないか」小誌の情報提供サイト「文春リクス」にも「宮内庁病院に入院している」との書き込みが相次いだ。同病院は皇居内にあり、基本的に皇室とその関係者が利用するものと思われがちだ。だが実は、宮内庁職員らの紹介があれば一般の国民も利用できる。「コロナ禍でどこも病床が逼迫しており、そう簡単に長期入院可能な施設は見つけにくいはず。宮内庁病院なら人目につかず雲隠れには最適。金銭トラブルにも深くコミットしてきた眞子さまの計らいで入院したのでは？」との推測が囁かれました。（皇室担当記者）

一方で、ある皇室ジャーナリストは「むしろ、悠仁さまがお生まれになった愛育病院の可能性があるので」と語る。眞子さまがお生まれになった時の担当医のひとり、中林正雄氏が現在センター所長を務める。「母体である『恩賜財団母子愛育会』の総裁を紀子さまが務めていることもあり、秋篠宮家との縁が相当深い病院なのは間違いありません」（同前）

さらに取材を続けると、こんな証言に行きあたった。「入院は事実です」そう明かすのは、佳代さんの近況を知る関係者だ。入院先までは知らない、としながらも、「佳代さんは先日退院し、五月上旬に職場に復帰したそうです。ただ心身ともに強いダメージを受けていて、体調が悪くなればまた入院するかも、と不安を漏らしています」佳代さんとX氏の今後の交渉はどうなるのか。「X氏は、この件は自分と佳代さんの問題なので、佳代さんとお会いしてきちんと話したい、との希望をもっています。その旨を上芝弁護士にはすでに伝えており、お返事をお待ちしています」（X氏の代理人）解決に向けたボールは今、佳代さんの手の中にある。

米国にいくらお金があってもパートナーにがまんならなくなつた夫婦あり。大阪に騒音をがまんできずに凶行に及んだ男あり。女性タレントは親のタカリをがまんできずに初告白。「がまんも限界」と言いたくなる日々が続くが、やっぱり人間、がまんが大事なようで……。

ワイドがまん



綾野剛が小誌に告白

「アレなしでは演技が……」

「この恋、深〜く〜く〜い問題アリ」
こんなキャッチコピーで始まったのが、「恋はDeepに」（日テレ系）。ヒロインの石原さとみ（34）とダブル主演を務める綾野剛（39）にはお気に入りのあるアイテムが……。

綾野は岐阜県生まれ。中学では陸上部に所属。八〇メートル走で県二位になったこともあるとか。「高校卒業後、アルバイト



藤森（左）のインスタより

「恋はDeepに」公式HPより
「今年二月、石原さんがコロナに感染。それを気遣ってか、綾野さんが中心となって共演者やスタッフに積

綾野のインスタより

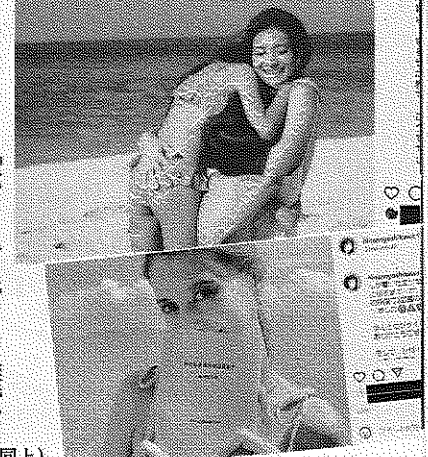
吉川ひなのの自著で明かした両親タカリの衝撃

（全然、幸せじゃなかった）五月十三日にエッセイ『わたしは幸せになるまで豊かな人生の見つけ方』（幻冬舎）を上梓するモデル

吉川。瞬く間に、九頭身美少女。としてスターダムを駆け上がった。九九年、十九歳でSHAZONAのボーカルI.Z.A.Mと結婚したが、



98年には「CM女王」に



ハワイに移住し、子供にも恵まれた(インスタより)

「七カ月でスピード離婚。その後はバリコレに出演したりもしていましたが、テレビに登場する機会は減っていった」(芸能関係者)

過去を初告白したエッセイ(同上)

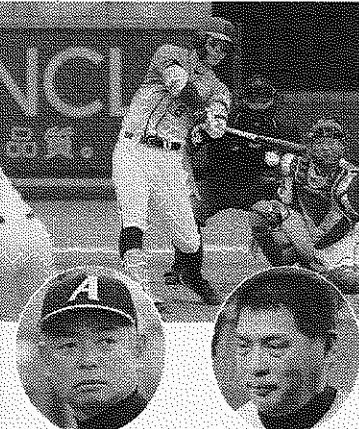
一世を風靡した彼女が今回、エッセイで初告白したのが、当時は明かしてこなかった「親との関係」だ。実は、幼少期は家の電気が止まり、借金取りに追われる日々だったという吉川。それでも、彼女の嫁ぎで一家は(豪邸)で暮らすようになった。多摩エリアの住宅街に佇む広さ二百平米の二階建てと見られる。だが、次第に吉川は芸能界に嫌気が差していく。九〇年代後半のことだ。別の仕事で生きていこうと考えた彼女は両親を訪ね、へ今までわたしが働いて稼いだ貯金を分けてほしいとお願

いしに行った)。すると、両親はわたしの稼いだお金で借りていた豪邸の玄関で顔を青ざめさせ、よくわからない言い訳を繰り返して、数時間後にやっとなってきた通帳には豪邸の家賃の二ヶ月分にも満たない額しか残っていませんでした。その後、IZAMとの結婚、離婚を経て、二十歳を迎えた吉川。芸能界にも距離を置き始めていたが、両親の「タカリ」は止まらなかった。ある時、父親が一人暮らしの家に無心しに来たという。吉川は「もうお金はない。五百円貯金しかない」と伝えたところ、父親は「それいい？」と貯金箱を持っていこうとした。へさすがに感情的になりわんわん泣いたけど、父親はなにも言わずにわたしの貯金箱を持って去って行った。どんだの彼女を救ったのが、〇〇年代半ばに出会った今の夫だった。一年に再婚。二人の子供に恵まれ、現在は第三子を妊娠中だ。「二三年にハワイに移住し、一四年にはアパレル関係の会社を設立。自身がプロデ

高3の夏一回戦 コールド負け 阪神佐藤の逆転人生

登場曲はももクロの「呪える」

タイガースに「令和の新怪物」出現。阪神のドラフト一位ルーキー、佐藤輝明(22)の打撃が唖っている。ホームランは一位タイ、打点は二位(五月九日時点)と、二部門でトップ争いを繰り広げているのだ。スポーツ紙記者が言う。「新人の打点王は長嶋茂雄さん以来誕生していない。インコース高めの速球が課題といわれていたが十分に適応。今後、歴史に残る打者になる可能性もある」。百八十七センチ、九十四キロの巨軀。父親の博信氏は一九九一年の講道館杯を制した柔道家だ。だが七歳で野球を始めた佐藤の道程は「野球エリート」のそれではない。中学時代は軟式野球部。高校も強豪校ではない地元の兵庫・仁川学院に進学した。同校の中尾和光部長(42・当時監督)が証言する。「入部時は六十キロくらいで細かったが、トレーニングでどんどん大きくなっていきました。打球を飛ばす



(左から)生田氏、榎本氏

代表に選ばれたのだ。当時の生田勉代表監督(現・亜大監督)が振り返る。「元近大監督の榎本保さんから『糸井(嘉男)二世がいるよ』と推薦されたんです。練習で上茶谷大河(現・横浜)からHRを打った時に代表に残そうと即決しました。海外遠征でも打撃練習で凄まじい打球を飛ばし、アメリカ人選手が拍手を送っていたほど。顔つきはイカツイですが、優しい性格で先輩からも可愛がられていました」

西角太さんが語る。「最初からプロになるという意識は高かったです。必須アミノ酸を常飲し、コンビニ弁当一つにもカロリリーや成分に気を配っていた。寮では大ファンの『ももいろクローバーZ』か、メジャーリーグの動画を観ていましたね。アロン・ジャッジ(ヤンキース)を見て、『俺もこういう打球を打ちたい』と」

六十センチほどの木製の棒の先に包丁をワイヤーで巻きつけ、さらに包帯で固定した槍のような凶器が発見されましたが、これは嘉本が自作し持ち込んだ模様です(同前) また、吉岡さんの部屋の外にはドアストップパーが置いてあり接着剤の跡もあった。中から逃げられないよう入念に細工されていたのだ。はしごを伝って二階の自室に戻った嘉本は、周到に用意しておいた灯油を部屋に撒き放火。燃え盛る部屋から病院に搬送されたが、一酸化炭素中毒で死亡した。「嘉本の財布からはホームセンターのレシートが複数見つかったっており、四月上旬からコッコツと準備をしていたことが判明。計画的犯行と見られます」(同前) 亡くなった吉岡さんは京都府京丹後市に生まれ育ち、大学進学とともに大阪に。

嘉本がそんな彼女を襲った原因の一つと見られるのが、騒音だ。「女子大生が入居したの頃、複数の男女で深夜までかなりうるさく騒いでいて、迷惑したことがありました。昨秋にも、お酒を飲んでたのか大きな声が聞こえてきたことがあります」(近隣住民) 警察の調べに嘉本の親族は、嘉本がここ五年ほど生活音に不満を抱いていたと話している。「今年の三月末から四月上旬に嘉本の部屋から壁をドンドン叩くような音が聞こえると、隣人の男子学生が交番に相談していた。その学生は程なく引越していった」(前出・社会部記者) 嘉本は島根県出雲市にある、四方を山に囲まれた小さな町で生まれた。

大阪女子大生惨殺、無口な48歳警備員の緻密な計画



高校時代の嘉本容疑者

「お母さん」 四月二十八日午前七時頃、大阪府大東市にあるマンションから女性の叫び声が聞こえたという。通報を受けて警察が駆けつけた時には、大きな火の手が上がっていた。

吉岡さんはバジヤマ姿。寝ているところを襲われたようです(社会部記者) 容疑者は、吉岡さんの真下の部屋に住んでいた嘉本(48)だ。「嘉本は自室のベランダから上階にはしごをかけ、吉岡さんの部屋に窓を割って侵入。彼女の部屋からは、

間の新築一戸建てを約二億三千万円で購入し、ハーブや野菜を育てる自給自足のスローライフを満喫中だ。「今年一月に所属事務所レプロから独立。過去のことも自由に踏み込んで書けたようです」(同前) 今も家計は吉川頼みだが、幸せになれたのか。

能力は当時から凄く、プロ顔負けの百四十メートルの大飛球を打っていた。性格はマイペース型。リダータイプではなかった。なので、キャプテンには指名しなかったという。二年生で四番に座り、夏の兵庫県大会で四回戦進出。最後の夏こそ、と臨んだ三年時だったが……。「一回戦の相手は、決して強豪校というわけではなかったのですが、佐藤が二安打を放つも一対十一でコールド負け。皆が立ちつくす中、佐藤の茫然自失としていた姿は、今も忘れられませんが」(同前) 甲子園未満の一球児で終わった高校時代。だが、進学した近畿大学で転換点が訪れた。二年時に大学日本

文春将棋 読心将棋のNONO 棋士が語る「藤井聡太」の羽生時代 文春ムック 定価(本体800円+税)絶賛発売中

会話中、その長い黒髪
女と目が合うことはほとん
どなかった。視線が絶えず、
スマホの画面に向けられて
いたからだ。端末にはパッ
テリーが常に装着。女は食
ホを手放そうとしなかった。
画面を覗き見ると、海外
セレブらのインスタグラム
をチェックしては、「いい
ね！」を押している。

事件後、野崎氏の自宅を訪れた早貴容疑者

二〇一六年春。旅行を通
じてA子さんが知り合った
のは、当時二十歳の須藤早
貴(25)だった。スマホ依
存症を自認していたとい
う早貴は地元・北海道札幌
市の美容専門学校を出たば
かり。A子さんには、あっ
けらかんこう話した。
「資格は取れたけど、美容
師になる気はなくて。親
からは『だったら語学留学
でもしなさいよ』って言わ
れたけど、グーグル翻訳が
あれば十分だし」
在校中、美容室の実習を

体験した早貴は、仕事の太
変さを感じ知る。友人に吐
露したのが、次の言葉だ。
「私には向いてないよ。心
が折れた。給料も安く割
に合わないし。私はラクし
てお金を欲しいんだよね」
将来の夢を尋ねると、こ
う即答した。
「今のところニートかな。
今もだけど。働きたくな
いんだよね。まあ何とかな
るよ。この先は東京に出て
ブーをやるんだ」
それから五年……。今年
四月二十八日、早朝五時過

ぎ、東京都品川区内にそび
え立つタワーマンションの
一室を、和歌山県警の捜査
員たちが訪れた。寝室のベ
ッドにいた起き抜けの早貴
は、眼前に逮捕状を突き付
けられた。容疑は元夫に対
する殺人と覚醒剤取締法違
反。早貴はうな垂れて同行

に応じた。
一八年五月、和歌山県田
辺市の資産家で、紀州のド
ンファン、と呼ばれた野崎
幸助氏(享年77)が急性覚醒
剤中毒で死亡してから、三
年近くが経っていた――。

シャネルなどの高級ブランドを受用
ドンファンの遺産13億円の行方は……

「2億欲しい」 ドンファン妻は 慰謝料30万にキレた

ワイドがまん

吉岡さんのインスタより(2点とも)



現場マッシュン

から女手一つで悟くんを育
てていました」(地元住民)
島根県立出雲農林高校の
畜産科を卒業し、地元の畜
産試験場に就職。一九九八
年には牛の蹄の削り方の巧
拙を競う大会で新人賞を受
賞したが、仕事は長続きし
なかった。
「職を転々とし、八年ほど
前に突然、大阪に行つてし
まった。周囲には特に理由
も話しておらず、みんな驚
いていた」(同前)
昨年からは正社員としてビ
ル警備会社で働いていた嘉
本。同社の関係者が明かす。
「勤務は三日に一回程で主
に夜勤でした。真面目で無
遅刻・無欠勤。無口な性格で
したが、『正社員として長く
働きたい』と言っていた」
面接では「コソコソと取
り組むことは得意です」と
アピールしていた嘉本。そ
の資質は、最悪の形で具現
化されてしまった。

**手付で2千億円
ビル・ゲイツ
離婚慰謝料は7兆円?**
「If only, you have to decide, what's important in the world」

ゲイツ氏の書籍(Netfixより)

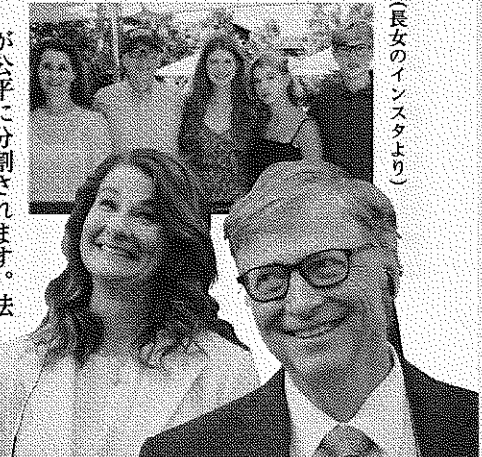
「私たちは人生の次の段階
で、夫婦としてともに成長
していけるのは、もはや信
じられなくなった」
五月三日、離婚を発表し
たマイクロソフト共同創業
者のビル・ゲイツ氏(65)。

ト社員のメリンダさんと結
婚したのは一九九四年。
「彼女の入社直後、会社の
夕食会で知り合った。ゲイ
ツ氏はダンスやデートを断
られても何度も誘い、初デ
ートで何時間も熱弁。次第
にメリンダさんも惹かれて
いったそうです」(同前)
九五年、「Windows95」を
発売し世界最大のIT企業
の地位を不動のものにした
マイクロソフト。九〇年代
後半、独占禁止法違反で米
司法省に提訴される。
「ゲイツ氏には公聴会など
で強欲なイメージもつい
た。悩む彼を慈善活動に向
かわせたのがメリンダさん
です」(ゲイツ氏に詳しい東
京電機大学・脇英世名誉教授)
夫妻は二〇〇〇年に「ピ
ル&メリンダ・ゲイツ財団」
を設立。途上国の感染症や
貧困の対策などに取り組み、
ゲイツ氏の印象も好転した。
昨年マイクロソフトの取
締役を退いたゲイツ氏は財
団に専念するとしていた。
「ただ、近年は財団の活動
の中で意見の相違も出てい
た。年次報告書を二人で書
く際に険悪になり、『これ

離婚ね」とメリンダさんは
思ったこともあったそうで
す」(前出・ジャーナリスト)
女性の影を指摘する声も。
「ゲイツ氏は、結婚後も妻
公認のもと、元交際相手と
五歳年上の女性実業家と年
に一度デート。また財団の
中国人通訳が離婚原因では
ないかと騒がれ、女性本人
がSNSで釈明した」(同前)
小誌が入手した裁判資料
によれば離婚を申請したの
はメリンダさんで、彼女が
離婚を望んだとみられる。
注目を集めるのは、史上
空前の。慰謝料だ。
「ゲイツ氏の資産は十四兆
円で世界第四位。ワシント
ン湖のほとりにある自宅は
推定八十億円です。米国内
にある農場だけで八百億円
の価値があります」(同前)
まず、離婚発表当日、
「手付」としてメリンダさ
んに株式が譲渡された。そ
の額、なんと二千億円相
当。シアトルのシャッツ法
律事務所の上奈緒子弁護
士が今後の見通しについて
解説する。
「ワシントン州では離婚理
由に関わらず、夫婦の財産

が公平に分割されます。法
律上、メリンダ氏には七兆
円以上分与される可能性が
あります」
財産分与に関する婚前の
契約がなければ、法律通り
進められていく見込みだ。
「三番目のお子さんがちょ
うど成人したタイミングで、
親権や養育費といった複雑
な争点もない。離婚申請書
にはメリンダ氏とともにゲ
イツ氏もサインしているの
で、裁判での争いをほぼ放
棄したと見られます。それ
でも資産の大きさと数から
考えると各地に保有する不
動産の分割方法などについ
ての話し合いは必要でしょ
う」(同前)
裁判は来年四月の予定だ
が、和解による早期決着の
可能性もあるという。

離婚後も財団の活動は続けるというメリンダさん(左)とゲイツ氏(右)



夫妻と三人の子どもの写真(長女のインスタより)

「私はないから大丈夫」
 時は、早貴と親しくして
 いた男性が打ち明ける。
 「早貴ちゃんの収入源は水
 商売のアルバイトでした。
 あけつびるげに『セフレが
 欲しい』と言うような子で、
 『店に来た日ハムの若手選
 手と寝た』とも。ホテルの
 一室なのか、トイレ中のそ
 の選手が、苦笑しながら制
 する様に手をカメラに向け
 ける写真を見せられました」

「黒髪を巻き、身に付けて
 いるのは全身シャネル。一
 部からは、キャバ嬢、みた
 いと言われていました」
 (専門学校の同級生)

日本有数の歓楽街・すす
 きのでは、ブランド品で身
 を固め、夜にサンングラスを
 かけて闊歩する早貴の姿が
 目撃された。ホストクラブ
 通いは周知の事実。高校
 時代の友人には「処女はホ
 ストで捨てた」と明かした。
 ホスト狂いを心配する友
 人もいたが、早貴はこう言
 って意を介さなかった。

「私は買られる派。自分か
 らは買がないから大丈夫」
 当時、早貴と親しくして
 いた男性が打ち明ける。
 「早貴ちゃんの収入源は水
 商売のアルバイトでした。
 あけつびるげに『セフレが
 欲しい』と言うような子で、
 『店に来た日ハムの若手選
 手と寝た』とも。ホテルの
 一室なのか、トイレ中のそ
 の選手が、苦笑しながら制
 する様に手をカメラに向け
 ける写真を見せられました」

「ジジイとか無理なんだよね」

風俗関係者が打ち明ける。
 「一六年の冬頃から一年ほ
 ど都内のデートクラブに登
 録していた。源氏名は『愛
 音』。最上級クラスの分類
 で、男性会員が支払う紹介
 料は十数万円でした。彼女が
 客に求めたのは、外見や性
 格ではなくお金。典型的な
 プロ愛人、です。同時期
 に『ミキ』の名で高級デリ
 ヘルにも勤め、客単価は四
 万円。店の取り分を引いて
 も、一日六万円から八万円
 は稼いでいたとみられます」
 早貴の運命を大きく変え

専門学校を終えると、早
 貴は上京。インスタグラム
 には以前にも増して煌びや
 かな生活ぶりが次々とアッ
 プされていく。高級フレン
 チなどの食事、ライトアッ
 プされたナイトプール、ド
 バイをはじめ、海外旅行先
 で撮られた数々のシーン。
 「投資と不動産をやってる
 友達の会社を手伝うんだ」
 札幌の実家にはそう説明
 していた早貴。だが、収入
 の柱は全く異なっていた。
 ことに本が出版され
 たのも、この年の暮れのこと
 だった。野崎氏による自
 叙伝『紀州のドン・ファン
 ン』(講談社)である。
 出合いの発端は一七年の
 秋、同書を読んだ男性が野
 崎氏に宛てた一通のファン
 レターだった。その縁で野
 崎氏と都内で会食した男性
 は「女性を紹介して欲しい」と依頼される。そして男性
 と三人の仲介者を挟み、登
 場したのが早貴だったのだ。
 知人の前で「ジジイとか
 無理なんだよね」と毒づい

たことのある早貴が、五十
 五歳も年上の野崎氏と籍を
 入れたのは、一八年二月八
 日。その実態は「月百万円
 の小遣い」を条件とした
 愛人婚、でしかなかった。
 それでも、若い妻を得て狂
 喜した野崎氏は、三月二十
 四日を予定日として、地元
 の世界遺産・罫神社での
 結婚式を予約。だが、早貴
 は「式を挙げるなら離婚す
 る」と拒絶する。
 早貴は実家にも入籍の事
 実を知らせなかった。野崎
 氏の怪死後、取材に応じた
 母親は、卒倒しそうになり
 ながらこう語った。
 「私には『結婚なんか束縛
 されるからしない。嫌だ』
 と言っただけですが...」

早貴にとっての結婚は、
 パパ活の延長に過ぎなかっ
 たのだらう。出会った直後
 から毎月の手当をもらって
 いた早貴は入籍後も東京暮
 らしを続け、夫のいる田辺
 市に寄り付こうとしな
 い。三月下旬、野崎氏は離れ
 離れの暮情を詠んだ百人一
 首の歌を早貴にメールした。
 「瀬をはやみ 岩にせかる
 る 滝川の われてもすもる

望みと大きくかけ離れた
 『手切れ金』の額。早貴か
 らすれば、とても許容でき
 るものではない。野崎氏と
 決別し、大金を手にして東
 京に戻るには――。事件の
 直前、早貴はスマホで「覚
 醒剤『病死に見せる方法』
 『完全犯罪』などのキーワ
 ードを検索する。
 六月一日、ミス・ワー
 ルドと東京で会う約束を
 楽しみにしていた野崎氏。
 同十一日には、五月六日に
 急死した愛犬イブのお別れ
 パーティーが控えていた。
 だが五月二十四日夜、覚醒
 剤によって命を絶たれた。

「早貴がSNSを通じて知
 り合った覚醒剤の密売人の
 男と接触したのは、事件の
 直前。事情聴取を受けた密
 売人も、その日、田辺市内
 で早貴と会ったことは認め
 ている」(捜査関係者)
 事件後、五月分の百万円
 を要求して会社の事務員を
 呆れさせた早貴。疑惑の
 未亡人としてマスコミか
 ら追われる日々が落ち着く
 と、ダイエツト目的でライ
 ザップのゴルフ教室に通い
 始め、その年の秋以降は田

に 逢はむとぞ思ふ」
 とはいえ、もともと気の
 長い御仁ではない。三月末
 頃には離婚届に署名。二人
 の男性従業員に命じ、証人
 欄も埋めた。証人になった
 従業員一人が語る。
 「毎月高いお金を払ってい
 るのに、早貴さんは全然田
 辺にこないし、電話も奇越
 してこなかったですから」
 同時期、野崎氏は早貴本
 人にも電話で離婚の意思を
 告げた。その効果があった
 のか、四月に入り、新妻は
 ようやく田辺市の野崎邸で
 同居を開始する。
 とこが野崎氏は、やは
 りこう言い始める。
 「あの女はダメや。家のこ
 とを何もせん。離婚や」
 夫婦と従業員たちが外食
 をした時のこと。野崎氏は
 早貴に聞いたのだ。
 「お前、下着を何十着も持
 って来てるけど、ちゃんと
 洗濯しとらんか」



高校時代の早貴容疑者(卒業アルバムより)

「父親は医者」と
 ウソを語っていた
 逮捕までの約三年間、早
 貴は都内のマンションや一
 戸建てなどを転々として
 いたが、そこには、支援者
 の存在があった。都内で探
 偵業を営む男性である。五
 十歳前後のベテランで、早
 貴が東京に持ってきた野崎
 氏名義の白いベンツも、こ
 の人物が買い取っていた。
 当人はこう語る。
 「早貴さんからサポートの
 依頼があってね、ベンツも、
 和歌山ナンバーだと、マス
 コミや警察から追ひ回され
 たりするでしょ。ほぼ市場
 価格で買い取りました。数
 百万円? そうですね」
 支援を認めた上で、こう
 主張するのだった。
 「彼女は冤罪の可能性があ
 りますよ」
 犯行が立証されなければ、
 六億六千万円の遺産を
 相続できる早貴。和歌山県
 警の調べに対し、淡々と容
 疑を否認しているという。

一方の早貴も、野崎氏に
 執着する気はなかった。華
 やかな都会とは違う地方都
 市の生活にも馴染めない。
 「離婚するなら慰謝料はも
 らうよ。早くお金だけでも
 って東京に帰りたい」
 月百万円の小遣いと、将
 来的な十億円単位の相続権
 を失う以上、それなりの慰
 謝料は譲れなかった。世間
 知らずな早貴は「二億円く

白ベンツを支援者に売却

「要はケチなんです。実際
 クラブで出会ったモデルに
 六千万円相当の金品を盗ま
 れた時、テレビで『二億円
 なんて紙切れだ』と言って
 注目されましたが、食事の
 出前を従業員に取らせて開
 口一番、『お釣りはどこ
 や!』と迫るような人です
 たから」(前出 従業員)

「要はケチなんです。実際
 クラブで出会ったモデルに
 六千万円相当の金品を盗ま
 れた時、テレビで『二億円
 なんて紙切れだ』と言って
 注目されましたが、食事の
 出前を従業員に取らせて開
 口一番、『お釣りはどこ
 や!』と迫るような人です
 たから」(前出 従業員)

「気前よく数千万円の報
 酬を払ってきた野崎氏だが、
 『コイツはアカン!』と思
 ったら金を出し渋る。田辺
 の自宅に呼んだ女の子の中
 には約束通りの額をもらえ
 ず、文句を言いながら帰っ
 っていた。

送検時は顔を伏せ続けていた



空返事の早貴は、「しや
 きつとせんか!」と野崎氏
 に一喝されても、薄笑いを
 浮かべるだけだった。
 「早貴さんは下着もそうで
 したが、タオルも二トリで
 何十枚も自分専用を買って
 きて、使い捨てていました
 た。『だって社長と同じの
 を使うのは気持ち悪いじゃ
 ん』って」(別の従業員)

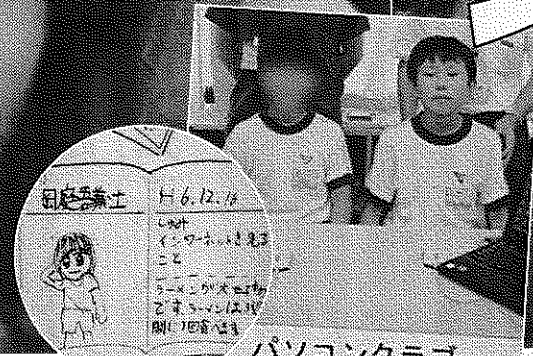
野崎氏が早貴を見限った
 理由はそれだけではなかつ
 た。長年の友人が明かす。
 「社長はその頃、東京で紹
 介された、ミス・ワー
 ルド」の女の子に夢中になっ
 ていたんです。『その子と
 結婚したいから、早貴とは
 離婚するんだ』と」
 野崎氏が熱を上げた新た
 な花嫁候補は、「ミス・ワ
 ールド・ジャパン」のファ
 イナリストの
 一人。当時二
 十代半ば、野
 崎氏好みのス
 レンダーな長
 身美女だ。五
 月以降は、彼
 女の話ばかり
 するようにな
 っていた。

「父親は医者」と
 ウソを語っていた
 逮捕までの約三年間、早
 貴は都内のマンションや一
 戸建てなどを転々として
 いたが、そこには、支援者
 の存在があった。都内で探
 偵業を営む男性である。五
 十歳前後のベテランで、早
 貴が東京に持ってきた野崎
 氏名義の白いベンツも、こ
 の人物が買い取っていた。
 当人はこう語る。
 「早貴さんからサポートの
 依頼があってね、ベンツも、
 和歌山ナンバーだと、マス
 コミや警察から追ひ回され
 たりするでしょ。ほぼ市場
 価格で買い取りました。数
 百万円? そうですね」
 支援を認めた上で、こう
 主張するのだった。
 「彼女は冤罪の可能性があ
 りますよ」
 犯行が立証されなければ、
 六億六千万円の遺産を
 相続できる早貴。和歌山県
 警の調べに対し、淡々と容
 疑を否認しているという。

茨城一家殺 人犯を育てた 地主一族の地獄

岡庭由征(26)

- ▶ 中学 趣味はナイフ収集 高校 猫の生首を持って登校
- ▶ 動機は「性的興奮」16歳で8歳、14歳女兒を連続通り魔
- ▶ 母「飛び降り自殺未遂」賠償金2千万円を支払った祖父
- ▶ 医療少年院5年で出所 グループホームを出た直後に…



パソコンクラブ

小学校時代はパソコンクラブ

特殊部隊も入った岡庭家の捜索

現場の家周辺には民家がない。中山道の宿場町として栄えた埼玉県北部の町に、一際目を引く風貌の青年が目撃されるようになったのは、二〇一八年の夏頃だった。「長髪の癖毛を赤だったり黄色だったり、いろんな色に染めていたので目立っていました。日中は家の中で過ごし、出歩くのは食事時のみ。うちのアパートは無料WiFiがあるので入居者は各自パソコンを利用し、部屋の中で過ごす人が多いのです。彼は車やバイクは持っておらず、移動手段は自転車か歩き。仕事はしていません」といいます。「アパートの大家」青年が移り住んだのは、地元の社会福祉法人が運営する精神障害者のためのグループホームだ。しかし青年はそこに安住することはない。一年も経たず埼玉県三郷市の実家に舞い戻った。「人を殺したくて仕方がない」

茨城県西部に向かった。茨城県境町。鬱蒼と生い茂る林中に竹む木造一軒家の二階で小林光則さん(当時48)と妻の美和さん(同50)が殺害されたのは、同日未明のこと。一階の無施錠の窓から侵入した帽子にマスク姿の男は、最初に光則さんの胸を鋭利な刃物で複数回刺し、その傷は肺にまで達していた。美和さんは一〇番通報した直後、首を刺されて事切れた。その後、長男(同13)が腕などを切られ重傷、次女(同11)も両手に軽傷を負ったが、九死に一生を得た。「一階で寝ていた大学生の長女(同21)は唯一犯人と遭遇せず無傷。事件後、幼い子たちは行政の支援を受け、長女は親族宅に身を寄せています」(社会部記者)

殺人容疑で逮捕された。捜査の過程で、周辺で過去に殺傷事件を起こした人物の一人として岡庭がマークされた。さらに自宅で毒ガスや爆弾を作っている疑いが浮上し、埼玉県警が昨年十一月に強制捜査を行ったのです。その結果、硫黄四十五キロを貯蔵し、危険物取り扱い基準に反していたとして、三郷市迷惑防止条例違反で逮捕。さらに今年二月十五日、警察手帳につける記章を偽造したことから公記号偽造容疑で逮捕。二回の別件逮捕を経て、ようやく本丸の殺人容疑にこぎ着けたのです(同前)

逮捕の決め手となったのは、押収した岡庭のスマートフォンやパソコンなどの電子機器の解析だった。「事件前、岡庭が事件現場の周囲をストリートビューなどで調べたり、自ら現場周辺を撮影したとみられる動画が保存されていたことがわかった。また、犯行に使われた熊撃退スプレーの

他、薬品や毒物などに関する書籍、ナイフを購入していたことも判明。さらに現場の足跡と一致するレインブーツを岡庭が履いていることが明らかになるなど、複数の裏付けにより容疑が深まった(捜査関係者)殺人容疑で送検される際には動揺も見せず、切れ長の吊り目で報道陣を一瞥した岡庭。凶悪犯の履歴書には何が刻まれているのか。「岡庭家は地元三郷市の大地主として知られています。彼のお祖父ちゃんには人に土地を貸して『毎月上がりがある』などと、よく自慢する人。一方で、儉約家。愛車は昔から何十年も乗り続けた農作業用の貨物トラックでした(二家の知人)岡庭が生まれる二年前の一九九二年、祖父は土地バブルの波に乗り、不動産ビジネスで蓄財。高額納税者番号にも名を連ねた。そんな岡庭家に嫁いだ母方の家柄も地元の名家だった。「奥さんの実家は、六百年余の歴史を誇る三郷市内の神社です」(母の知人)九三年に見合い結婚した両親の下、翌年十二月に生まれた岡庭の出生名は「吾義士」。母方の神社の神主が付けたという。

大地主一族で何不自由なく育った少年はなぜ、殺人に性的興奮を覚える「モンスター」となったのか。総力取材でその半生を追う。

「すべの始まりは「ヤミ殺し」」

九九年に一念発起。国家資格である土地家屋調査士試験を受験し、同年十一月から測量士として働き始めた。すでに岡庭家には次男が生まれていたが、母が溺愛したのは長男の吾義士だった。当時を知るママ友が語る。「小一くらいは、よく吾義士はうちに遊びに来てい

「彼は中学一年のときはテニス部でしたが、六、七月には急に部活に来なくなりました。その後はずっと帰宅部でしたが、やがて虫などの解体に興味を持ち始めたのです。夏になると、自宅近くの地面にしゃがみ、何やら熱心に作業をしている。覗き込むと、セミの胴体を叩いて切り離していた。やがて、対象は昆虫、カエル、スズメへとランクアップしていったのです」

その頃、一家が暮らしていたのは、祖父父母が住む母屋ではなく、敷地内に隣接する離れだった。岡庭の部屋は二階で、両親が寝室に行くには、岡庭の自室を通る構造になっていたという。

十一歳でパソコンを覚えた岡庭が頻りに閲覧していたのは、アダルト動画と殺人シーンのある暴力系サイトだった。とりわけ心を捕らえたのは、猫を如てる残酷な映像の数々。だが、それに気付いた母は、「こんなことしちゃいけないんだよ」と、軽く注意するのみだったという。

「たしかに地域の方やPTAから『岡庭くんが猫を蹴飛ばしている』という話が学校に上がっていましたが、その頃は警察沙汰になるほどではありませんでした」

中学卒業後、岡庭は千葉商科大学付属高の商業科に進学。同級生が振り返る。「入学当初は影の薄い子でした。ところが高二の頃、彼を有名にする『事件』が起きたのです」

「いつか人を殺してみたい」

一二年十一月一日、午後の授業が終わわり、休み時間になった直後のこと。椅子から立ち上がった岡庭は教室の後方に歩を進め、鞆からおもむろに大きなジャムの容器を取り出した。蓋を開いた直後、教室中に腐敗臭が漂う。瓶の中には切断された猫の生首が入っていた。教室は大パニックで、他のクラスにも瞬く間に情報が伝わり、教師が駆けつける事態になった。「彼は猫を持っていった理由を『仲間がほしかった』とみんな喜ぶかと思って」と

「たしかに地域の方やPTAから『岡庭くんが猫を蹴飛ばしている』という話が学校に上がっていましたが、その頃は警察沙汰になるほどではありませんでした」

「一匹ではなく、もっと猫を殺してみたい。次は人を殺るのではないか」

8)の背中、胸、腕を鋭利な小刀で刺し、数センチずれば命を失った可能性がある重傷を負わせたのだ。その四日後、殺人未遂容疑で逮捕された岡庭。捜査や裁判の過程で、おぞましい事実が次々と判明する。「家宅捜索ではサバイバルナイフなど七十一本の刃物が押収され、近隣で車や納屋などを焼く六件の放火事件を起こしていたことも分かった。岡庭は動機について『少女を襲うのに性的興奮を感じていた』と述べ、『殺して首を持ち帰ろうと思った』『自由になったらまた人を殺したい』とも語っていた」(司法記者)



包丁は? 「血が付いているから見ていた。自分の部屋で刃を舐めたり……」

中学時代から猫の虐待を開始 好きな言葉、尊敬する人は「ない」

謝罪文を送ったのは、事件翌年の十二月。しかし、それはB子さんに宛てた文面と酷似した、たった七行の文面でした(司法関係者)

オイルを撒き、火を付けた。「たまたま裏手を歩いていたら人が知らせてくれ、警察に通報したのです。植え込みの根本の五十〜六十センチ四方が燃えた。その後、岡庭の息子が逮捕され、弁護士から『そちらにご迷惑をおかけしたようで、謝りに行きたい』と連絡がありました」

聞かされてきました。一命を取り留めた母親は精神的に参ってしまい、入院を繰り返しているようです

間、彼に何か問題があったということはありませんでした(同前)

一家殺傷後、ラブホテル街に

男性と岡庭家は先代の頃から顔見知り。そのため男性は「謝るならきちんと両親を連れて来い」と弁護士に申し入れたという。

「裁判費用や賠償金は、祖父が所有していた自宅裏の一千平方メートルほどの土地や畑を売却して工面していただきました」(二家の別の知人)

「お父さんは測量士として役所の仕事を請け負っていたけど、事件後は次第に仕事が出来なくなり、約五年前に廃業。体調の悪化もあり、今は貯金を取り崩す生活をしています」

だが、共同生活が窮屈になったのか、鬱屈した感情を抱えた岡庭は約六年ぶりに帰郷。その直後から次の「犯行準備」に取り掛かり、至んだ欲求を完遂したのだ。

さいたま地裁は、生まれつきの広汎性発達障害や生育環境が動機に直結していると判断。二三年三月、保護処分相当とし、岡庭は関東医療少年院に送られた。岡庭の父も、十八歳未満の所持が禁止された刃物を買って与えていたとして、県青少年育成条例違反容疑で書類送検され、罰金三十万円の略式命令が下されている。

「謝罪に来た親父とはぼけた様子で、謝る態度じゃなかった。『お前の息子があちこちに火をつけていたんだろ?』と質すと『いやあ、俺は知りません。わかりません』と繰り返すばかり。母親は『すいません』と言っていたが、親父は最後まで謝罪の言葉がなかった。結局、二十万〜三十万円の賠償金で和解した(同前)

「事件後、母親はノイローゼになり、誰も連絡が取れなくなりました。そんな中、隣のスーパーマーケットのビルの上階から飛び降り、入院したという話が

「面談時はガリガリに痩せていて(少年)院から来た。受け入れ先がなかったんだ」と話していた。うちは精神障害者が入居対象になります。自炊、掃除をこなすことができ、定期通院、金銭管理などができる人に限定しています」

「うちの運転手が彼を乗せ、『東京の鶯谷に行ってください』と言われた。ラブホテル街で下ろしたのだが、運賃は七千〜八千円だった」

池田隆雄「UPHONOKU MONJU」Aが人の仕事を奪うなんて誰が言ったの? 人器フィクショナル作家がSUIに挑戦!